

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月3日

【評価実施概要】

事業所番号	870500246		
法人名	者愛福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホームセンチュリーの里		
所在地	石岡市三村6284-7 (電話) 0299-27-0001		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年2月7日	評価確定日	平成20年7月3日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	12 人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺	造り	単独型
	1階建ての	~1	階部分 2棟

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	43,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4	要介護2	5		
要介護3	5	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 84.4 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	パレスメディケア病院, つくば病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは「一人ひとりの個性ある生活を支援しながら、地域社会で交流し、地域の一員として暮らすことをめざす」の理念を掲げ、管理者・職員とともに日々工夫を重ね実践に向けて日常的に取り組んでいる。
隣接する病院とは利用者の体に変調があった時は、すぐ相談出来るようになっており利用者や家族に安心感を与えている。
職員は利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割・たのしみを見出し支援している。
利用者と職員という隔たりなく地域の人々と積極的に交流することで気の合う仲間づくりを支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価の結果をもとに、記録のファイリングの工夫や全職員に重要事項が確実に伝達するよう、チェックやサインの仕組みを構築している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自らの気づきや外部評価について改善に取り組むとともに、全職員で自己評価を行っている。 前回外部評価の結果をもとに、記録のファイリングの工夫や全職員に重要事項が確実に伝達するよう、チェックやサインの仕組みを構築している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の議事録を作成し、会議の内容を職員に周知を図っている。 開催状況は6ヶ月に1回であり、職員全員で課題の改善や要望を取り入れる対応までに至っていないので、2ヶ月に1回開催し、事業所からの報告と参加メンバーからの質問・意見を受け、その経過を報告し合いこれまでの評価結果についてモニターしてもらうなど、会議メンバーから意見をもらい、それをサービスの向上に具体的に活かしていくことを期待する。 市の担当者と中学生の介護体験学習の受け入れについて相談するなど、意見交換や情報交換を行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者の日頃の様子を手紙やホーム便りとともに定期的に金銭管理の報告も送付している。 家族の面会時に意見や要望を把握できるよう働きかけたり、電話や手紙でも話が聞けるよう留意している。 玄関に苦情受付ポストを設置している。 家族からの意見等について検し改善に努めている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りや小学校の行事に参加している。 隣接の特養老人ホーム・デイサービスの利用者や訪問ボランティア・保育園児・介護体験の中学生と積極的に地域の人々と交流に努めている。
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは「ひとりひとりの個性ある生活を支援しながら地域社会で交流し、地域の一員として暮らすことをめざす」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、日々の実践の中で活かせるよう話し合いや工夫を重ねて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り(産業祭)や小学校の行事(多聞祭)に参加している。 隣接の特養老人ホーム・デイサービスの利用者や訪問ボランティア・保育園児と積極的な地域交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自らの気づきや外部評価の結果について改善に取り組むとともに、全職員で自己評価を行っている。 前回の外部評価の結果をもとに、記録のファイリングの工夫や全職員に重要事項が確実に伝達するようにチェック・サインの仕組みを構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を作成し、会議の内容を職員に周知を図っている。 しかし、開催状況は6ヶ月に1回であり、職員全員で課題の改善や要望を取り入れる対応までに至っていない。	○	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、事業所からの報告と参加メンバーからの質問・意見を受け、その経過を報告し合い、これまでの評価結果についてもモニターしてもらいなど、会議メンバーから意見をもらうことでその意見をサービス向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と中学生の介護体験学習の受け入れについて相談するなど、意見交換や情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の日頃の様子を伝えた手紙やホーム便りと共に、定期的に金銭管理の報告を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望等を把握できるよう働きかけている。電話等でも話が聞けるよう留意している。 玄関に苦情受付ポストを設置している。 家族からの意見等について検討するとともに改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所内で職員の最小限の異動はあるが、日頃、それぞれの棟を行き来することにより、交代時に利用者へのサービスの質が低下しないよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	設置法人内の研修や勉強会で意見交換などを行っている。 研修参加者は、研修内容をミーティング等で報告し、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム同士で交流する機会や勉強会を行えるような具体的な取り組みまでに至っていない。	○	関連の事業所などと学習会や交流を持つことにより、サービスの質を向上させていく取り組みを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族はデイサービスの通所や事業所の見学、他の利用者との交流を経て納得した上で利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに草花作りの指導を受けたり、習字・俳句・英会話・音楽鑑賞を共に興じ、人生の先輩としてアドバイスを受けるなど支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の思いや意向を把握するため、声かけを行い利用者の希望する生活が送れるよう日々確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を第一に考え、関係者と職員間で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、利用者の状態に変化があった場合は必要な関係者と話し合い見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その都度要望に応じて出来ることを柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望でかかりつけ医を決定している。 定期的及び症状に応じての受診等適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族の意見を尊重しながら、医師と話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけや、対応を行っている。 利用者の面会時に家族が記入する用紙を作成し、記入後は所定の箱に入れる事でプライバシーを損ねないよう工夫している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重し、自由な生活を過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや能力を活かし、職員が一緒にお茶入れ・配膳・片づけをしている。 懐かしのメロディを聴きながら食事が楽しみなものになっている。 希望の献立の日、おたのしみの食事会を設けている。 梅干により薄味を調節する工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日実施し、時間や回数は希望に合わせている。 利用者が満足できる入浴時間や入浴温度を調整し、ゆったり楽しめるよう支援している。 安心して入浴出来るよう福祉用具の準備もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	五節句の行事や洗濯物たたみ、家庭菜園での野菜作り、食後の片付け、交流会での歌唱の披露等、利用者一人ひとりが役割を持って楽しい日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分・希望に応じて、散歩・日光浴等、外気に触れるよう支援している。 隣接施設を訪ねたり、ドライブ、車での買い物等利用者が外に出られるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置して人の出入りが分かるよう工夫している。 鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと防災訓練を実施するとともに非常時の対応マニュアルを作成している。 近隣に住宅がないため協力が得られない。 非常時の必要品の備蓄と屋外の避難場所の確認には至っていない。	○	事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加協力を得られるよう、運営推進会議で話し合い、災害に備え3日分くらいの食料・飲料水等を備蓄し、避難経路・場所の確認などすることを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック票を作成し、利用者の食事や水分の摂取量を把握し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は自然光を取り入れ、窓から自然の景色が眺められる。 季節感の花や置物により、五感に触れながら、居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や思い出の写真・日用品等を持ち込み、本人が心地よく過ごせるよう配置している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。